

## 1.17 あしやフェニックス基金助成金の対象者拡大

「1.17 あしやフェニックス基金」は、阪神・淡路大震災で得た尊い経験と教訓を次世代に継承し、災害に強いまちづくりを進めるため、国際ソロプチミスト芦屋様のご寄附をはじめ、この趣旨に賛同いただいた皆さんからの寄附金と芦屋市の財源を合わせて設立した基金です。

この基金をできるだけ多くの方に活用していただくとともに阪神・淡路大震災20周年事業を芦屋市全体で盛り上げていくため、対象者を拡大しました。

- 市民を1人以上を含む3分の2以上のメンバーが、近畿圏内の大学、高等専門学校及び専門学校の学生である3人以上のグループを新たに対象とする。
- 平成26年度中に実施された震災20周年関連事業に限り、他の補助金等との併用を可とする。〔平成26年度のみの特例〕

### H26 年度フェニックス基金申請状況

	申請団体	事業名
1	ボランティアグループとまと	「伝えたいあの日」コンサートと資料展示
2	浜町自治会	浜町灯ろうまつり 2014
3	三条コミュニティスクール	三条コミスク地域自主防災総合訓練雪まつり
4	芦屋ボランティア連絡会	芦屋ボランティア連絡会 30 周年の集い
5	陸上自衛隊中部方面音楽隊後援会芦屋支部	慰霊と鎮魂・東北復興支援 阪神・淡路大震災 20 年祈念コンサート
6	劇団あんだん手・イキイキ健康講座	阪神・淡路大震災 20 周年事業 「心を癒す音楽をください」
7	あおぞらドラマカンパニー 「青い空に絵をかこう」上演実行委員会	阪神・淡路大震災 20 周年事業 朗読劇「青い空に絵をかこう ～ 1.17 震災の街で生まれた愛の手紙～」
8	「この町がすき」を伝えるプロジェクト	「この町がすき～愛する人たちへ」コンサート
9	岩園コミュニティスクール	岩園コミスク地域自主防災総合訓練
10	神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト

## 阪神・淡路大震災の芦屋市の被害の概要

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部(北緯34度36分、東経135度02分)、深さ16kmを震源とするマグニチュード7.3の地震が発生しました。

この地震により、神戸と洲本で震度6を観測し、気象庁地震機動観測班により本市のJR芦屋駅付近及び三条町の一部、山手町の一部が震度7であることが発表されました。

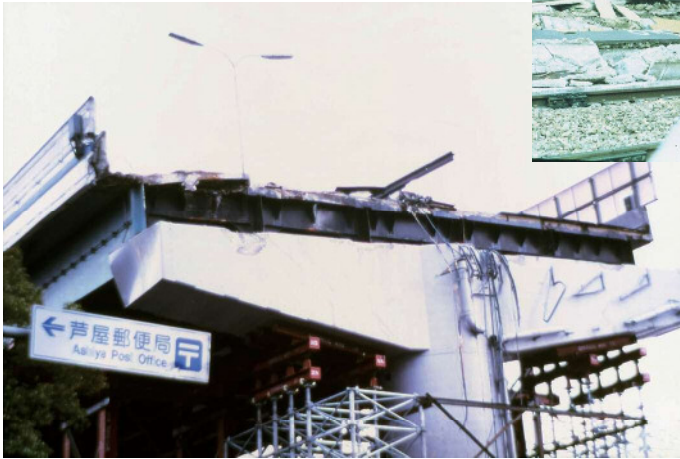
全体で死者は6,400人以上(いわゆる関連死を含む)、負傷者は43,700人以上に及ぶなど関東大震災以来の国内最悪の甚大な災害となっています。

本市におけるこの震災の被害の特徴としては、次のようなことがあげられます。

- ・地震発生直後、一瞬のうちに老朽木造家屋を中心に多くの建物が倒壊した。鉄骨造、鉄筋コンクリート造等の建物も一部倒壊するなど大きな被害が発生した。
- ・早朝の発災であったため、就寝中の市民が倒壊した建物や家具等の下敷きとなるなど多数の死傷者が発生した。
- ・地震発生直後に同時多発火災が発生し、さらに3日目まで地震が原因と考えられる火災が引き続き発生した。
- ・発災後の各種の応急活動を展開すべき市庁舎等の中枢機能が自ら被災した。
- ・応急・復旧活動に必要な不可欠な道路や交通機関等のインフラ施設が損壊した。
- ・水道、下水道、通信、電気、ガス等のライフライン施設が損壊し、発災後の生活や応急活動の機能が著しく低下した。
- ・芦屋浜の埋立地区を中心に広い範囲で地盤の液状化が発生した。
- ・住宅の被害が全市的に甚大であったため、多くの市民が長期にわたり避難所で生活し、避難所解消後は応急仮設住宅等での不自由な生活を余儀なくされた。



JR 芦屋駅南



阪神高速神戸線の倒壊



JR 芦屋駅プラットフォーム

## 本市の被害状況一覧表（平成 7 年 1 月 1 日現在の人口 85,668 人，33,802 世帯）

区分		被害	備考
人的被害	死者	444 人	
	行方不明	0 人	
	負傷者	3,175 人	
	避難者	20,960 人	ピーク時（1 月 19 日）
建物被害	全壊	4,722 棟	
	半壊	4,062 棟	
	一部損壊	4,786 棟	
	地震火災	13 件	発災後 3 日間の発生件数
公共土木施設等被害	道路	47,410m	市道・国庫補助対象分
	橋梁	12 カ所	
	河川	2 カ所	平成 8 年度に復旧完了
	海岸施設	8 カ所	平成 8 年度に復旧完了
	公園	33 カ所	国庫補助対象分
ライフライン等被害	水道	直後に全域で停止	2 月 28 日に給水率 96%
	下水道管渠	277 カ所	(H7.3.31 現在の応急復旧箇所)
	下水処理場	直後に処理機能停止	1 月 31 日から下水処理開始
	電話	9,200 回線	1 月 31 日までに復旧完了
	電気	直後に全域で停電	1 月 22 日に応急復旧完了
	ガス	直後に全域で停止	4 月 10 日に復旧率 99.8%
	鉄道不通	直後に広域的に不通	JR:4 月 1 日、阪急:6 月 12 日、 阪神 6 月 26 日に全線開通

## 防災の取り組み

### <兵庫県・阪神地区合同防災訓練>

8月31日(日)、潮芦屋フリーズゾーンをメイン会場に兵庫県と阪神地区7市1町(芦屋市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町)の主催により85機関、約2,000名が参加して合同訓練を実施しました。

#### 実動型訓練

陸路、海路、空路を活用した救出・救助、  
物資輸送訓練、ライフライン復旧訓練など

#### 体験型訓練

福祉避難所開設訓練  
災害ボランティアセンター開設訓練  
避難所開設・運営訓練

#### 展示ブース

防災関係機関、企業による展示・広報  
車両展示など

#### 阪神地区7市1町におけるシェイクアウト訓練



### <地域防災訓練>

芦屋市内は、現在64団体が自主防災組織として活動しています。

#### 「自分たちのまちは、自分たちで守る」

自主防災組織とは、防災を目的とした、市民の自発的な地域組織です。

私たちは、平成7年の阪神・淡路大震災を通じて、地域の人を救うのは地域の人々であることを痛感しました。救助者を例にすると、消防・警察・市職員・自衛隊等行政に携わる者が救出した人数は131名でした。この数値の数倍の人々が、皆さんのお住まいの近隣の住民の協力により救助されました。

このように、市民の皆さんの協力なくして、災害からの被害を最小限に食い止めることはできません。日ごろから近隣の人々との交流を通じて、災害のこと、人命救助のこと、訓練のこと等地域の防災に関することを考え自主防災活動を活発にしておくことが大切です。